

2022年4月17日（日）復活日・イースター

銀座教会 主日礼拝（家庭礼拝）

礼拝招詞「わたしは知っている わたしを贖う方は生きておられ

ついには塵の上に立たれるであろう。」

ヨブ記19章25節

主の祈り

交読詩編 詩編118編13～17節

激しく攻められて倒れそうになったわたしを

主は助けてくださった。

主はわたしの砦、わたしの歌。

主はわたしの救いとなってくださった。

御救いを喜び歌う声が主に従う人の天幕に響く。

主の右の手は御力を示す。

主の右の手は高く上がり

主の右の手は御力を示す。

死ぬことなく、生き長らえて

主の御業を語り伝えよう。

使徒信条

讃美歌 153番 わがたまよきけ この知らせを

聖書 マルコによる福音書16章9～18節

9「イエスは週の初めの日の朝早く、復活して、まずマグダラのマリアに御自身を現された。

このマリアは、以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である。10 マリアは、

イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいるところへ行って、このことを知らせた。11 しかし

彼らは、イエスが生きておられること、そしてマリアがそのイエスを見たことを聞いても、信じ

なかった。

12 その後、彼らのうちの二人が田舎の方へ歩いて行く途中、イエスが別の姿で御自身を現

された。13 この二人も行って残りの人たちに知らせたが、彼らは二人の言うことも信じなかつた。

14 その後、十一人が食事をしているとき、イエスが現れ、その不信仰とかたくなな心をおと

がめになった。復活されたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。15 それ

から、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

16 信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。17 信じる

者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。

18 手で蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば治る。」

牧会祈祷

天の父なる神さま。主の年2022年復活日礼拝に私たちをお招きくださり感謝いた

します。主がお与えくださる憐れみによって、十字架の主イエスを仰ぎ、受難週の

一日一日を過ごしてまいりました。十字架上の主イエスの御苦しみが私たちの罪を身

代わりとなって苦しまれたことを知り、ひたすら感謝いたします。復活日を迎えました。礼拝にあずかり、あなたの御言葉と祝福を与えられ、歩み始めます。主イエスと共に、私たちも自らの十字架をしっかりと背負い、主イエスに従いたいと願っています。主イエスの十字架から復活への道をたどりつつ復活節を歩み出します。新しい言葉と祈りをお導きください。子供たちの学び舎での生活が守られますように。祝福の中で大切な経験を積み、豊かな成長をお与えください。本日は、青山霊園において、墓前礼拝を行います。この礼拝を通して、信仰の先達を覚え、復活の主を讃美いたします。奉仕者を用い、あなたの栄光を現す場としてくださいますようにお祈りいたします。

平和を求めて祈ります。暴力の支配を進む過ちに気付きますように。神を愛し隣人を愛する道へ導き、悔い改めをお与えください。家庭礼拝をささげる一人一人を顧みてください。キリストの御名によって祈ります。アーメン

説教 「とがめられた弟子たち」

牧師 高橋 潤

日本において主イエス・キリストの復活日が、一般的にもイースターとして広がってまいりました。イースターは移動祝祭日として「春分の後の満月の次の日曜日」と決定したのは、約1700年前、紀元325年第1回ニカイア公会議でした。それ以降、毎年、イースターはこの決定に従って計算され、カレンダーに記されてきました。なぜ、わかりにくい移動日となっているのかというと、例えば毎年4月17日と固定日に決めてしまいますと、イースターが日曜日にならないからです。第1回ニカイア公会議は、4つの福音書に記されている「週の初めの日の朝早く」という聖書の御言葉を重んじ、全世界の教会が復活日を同じ日曜日に祝うことを決めたのです。聖書の御言葉を重んじ、イースターは日曜日であることにこだわったのです。それ故、主イエスの復活日礼拝は「春分の後の満月の次の日曜日」と定められているのです。キリスト教の中でも東方教会は私たちと違うユリウス暦を用い続けていますので、私たちの「春分の日」とずれています。1997年東方教会と西方教会の代表者が集まり、グレゴリオ暦を用いる西方教会とユリウス暦を用いる東方教会とイースターの日を一致させる提案が協議され、現在検討中です。世界のキリスト教会のイースターが統一する日が来るかもしれません。

本日与えられた聖書の御言葉は、マルコによる福音書16章9節「イエスは週の初めの日の朝早く、復活して」とはじまるマルコによる福音書の結びの言葉です。この福音書には、すでに16章1節から8節が第一の結びの言葉となっていますが、再び、新しい言葉が与えられて2回目の結びの言葉が記されています。第一の結びでは、復活の主イエスも登場しません。主イエスのご遺体が収められた墓の出来事が記され、婦人たちの驚き、正気を失うほど恐れていたことが記されています。第二の結びでは、復活の主イエスとの出会いと復活の主イエスの言葉が記されています。

復活の主イエスは、恐れあまりに正気を失っていたマリアの前に姿を現しました。復活の主イエスは二人の弟子たちにも別の姿を現しました。その後、11人の弟子たちの食卓にもお姿を現されました。二つの結びを通して、私たちに伝えられているこ

とは、復活の主イエスの方から一人一人に姿を現してくださり、彼らの恐れから主のみ顔を仰ぐ信仰へ導かれたということです。震え上がり正気を失っていたマリアが復活の主にお会いすることによって、信仰を与えられて、まだ悲しんでいる人々へ「主イエスは生きていられる」と伝えました。つい今まで震えていたマリアが、復活の主イエスとの出会いによって、恐れから信仰へ導かれているのです。

復活の主イエスは12節以下に登場する二人の弟子たちにお姿を現しました。復活の主イエスに出会った弟子たちは、「残りの人たちに知らせた」とあるように、復活の主イエスを指し示し、主イエスを宣べ伝える者に変えられました。

復活の主イエスは、11人の弟子たちが集まる彼らの食卓にお姿を現しました。彼らが復活の主イエスと出会った人の言葉を信じなかったことをとがめました。その上で、伝道命令を与えられます。復活の主イエスは、弟子たちの「不信仰とかたくなな心」をおとがめになりました。復活の主イエスと出会った人々の証言を信じなかったからです。主イエスにとがめられたこと、これがとても大切なことだと思います。

教会の信仰は、復活の主イエスに出会ったと人々の証言からはじまりました。その証言は「主イエスは生きておられる」という証言です。主イエスは十字架上で息を引き取られました。しかし、主イエスは三日目に復活すると三度も予告していたとおり、神のみ力によって、死に打ち勝ち、復活され、その姿をマリアや弟子たちに現されました。私たちは聖書を通して、十字架から復活への道を辿り、主イエスと出会った人々の証言を聞き、悲しみに支配された人生から主イエスと共に生きる人生へ方向転換するとき、主イエスが愛をもってとがめられたことを忘れてはならないのです。

本日の聖句の中には「信じなかった」という言葉が3回登場します。弟子たちが自らの「不信仰とかたくなな心」を知るに至ったのは、主イエスにとがめられたからではないでしょうか。震え上がり、正気を失っていたマリアが我に帰って復活の主イエスが生きっていると語りだすほど変えられても、信じなかった弟子たちです。「不信仰とかたくなな心」は、復活の主イエスの言葉でなければ、不信仰のままであり、かたくなな心のまま放置するしかないのです。

私たちが伝道する時、私たちが復活の主イエスに成り代わって、家族や友人をとがめても反発されるだけでしょう。そうではなく、復活の主イエスが生きていることを伝えるとき、もっとも大切な事は、私たち自身が「不信仰とかたくなな心」であったものとして、主イエスがとがめられた言葉を一緒に聞く姿勢です。

マルコによる福音書の背景にある教会は、教会全体が復活の主によって弟子たちがとがめられた言葉を共に聞くことを大切にしましたのです。主イエスにとがめられた者は、死の恐れから解放されます。主イエスにとがめられた者は、復活の主イエスの御言葉に耳を傾け、御前に礼拝の姿勢を正し、主の御前に立つのです。

復活の主イエスは、とがめて終わりとするのではなく、弟子たちをとがめられたあと、愛の命令を与えます。それが15節から18節です。

私たちは、復活のキリストの言葉によって、恐れから信仰へと導かれます。主イエス・キリストの言葉によって、イエス・キリストを通して神への信頼関係を与えられ

ます。十字架の主イエスが復活して私たちに会って下さることから信仰ははじまります。聖書を通して、隣人を通して、神さまとの信頼と感謝の関係が信仰です。「信じます。信仰のないわたしをお助け下さい」（マルコ 9：24）と私たちは主イエスの言葉に応えます。死に勝利された復活の主イエスを信頼することは、救いの喜びへの招きです。自分自身の不信仰とかたくなな心がよく分かるようになります。信じなかった自分自身の弱さ惨めさが見えてきます。与えられた信仰を土台として、希望をもつことが出来ます。信仰を土台として愛が与えられます。復活の主にあふれていることが、御言葉を通して豊かに与えられます。豊かな湧き水のように汲めども尽きない泉のように、神がいかにしてわたしのことを愛してくださっているかが御言葉によって与えられます。救いの喜びに満たされます。

信仰は個人の信仰であると共に教会の信仰でもあります。本日、日本基督教団信仰告白を一つとなって告白したように、私たちは教会の信仰告白に加わり、洗礼をもって教会員として加えられます。主イエスを救い主と信じて、信仰を告白して洗礼を受け、キリストと共にあること、聖霊を受けます。わたしは信じますという個人が信仰を告白して洗礼を受け、キリストの体なる教会に加えられます。

信仰は救いにとってなくてはならないものです。

ローマの信徒への手紙 10 章 9～11 節

「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。10 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。11 聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。」信仰を与えられることを感謝して、生ける復活の主を証しし、豊かな信仰生活を過ごしましょう。

本日は4人の方々が洗礼をお受けになります。また、5名の方々が銀座教会に転入会されます。神さまの導きに感謝して、復活の主イエスと共に歩みましょう。

祈り 天の父なる神さま。あなたは、弱さと惨めさの中で恐れる私たちをとがめ、復活の主イエスを通して信仰へ導いてくださいました。心より感謝いたします。

主イエスの十字架からイースターへ導かれ、新しい言葉をお与えになり、信仰を告白する者に変えてくださいました。主イエスのよみがえりによって、信仰、希望、愛に生きる者へと更にお導きください。不信仰とかたくなな心をとがめてくださり感謝いたします。復活の主イエスの招きに応じて生きる者へお導きください。

主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

讃美歌 154番 地よ声高く 告げ知らせよ

献金

頌栄 544番

祝祷 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。 アーメン